

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	リスペクト・ソリッド	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：リスペクト・ソリッド

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：リスペクト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

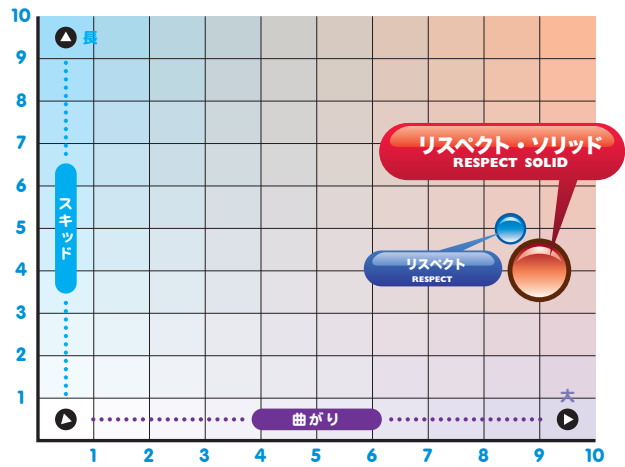
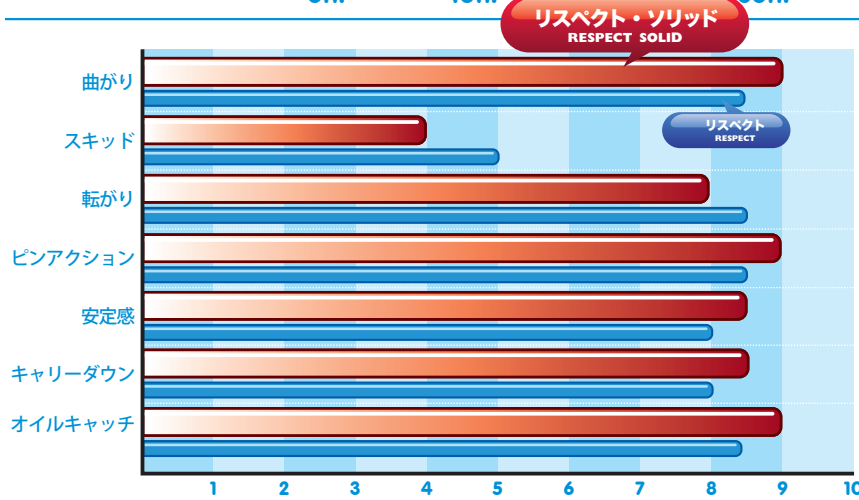
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

昨年2月中旬、900Global社で最もバックエンドが過激に動くRESPECTが発売されました。その圧倒的なポテンシャルを武器に900Global専属クリスパーズはDHCカップ優勝とTV決勝パーフェクトを成し遂げ一躍脚光を浴びました。初代RESPECTはキャッチ系のカバーストックでありながら走りも十分に感じたのでバックエンドで過激になる傾向がありました。ですので表面の光沢をやや消すことで奥での動きを安定させようとするポウラーが多かったのです。クリスもそんな中の一人でした。

今回発売するRESPECT SOLIDは、MOXIEやDREAM PRO等で使用されたDigカバーストックのSOLIDベースを採用しています。SOLIDベースのカバーストックは常に強いコンタクトを接地面に求めるので、手前から摩擦が強く出る傾向が見られます。

このRESPECT SOLIDも同様なことが言えるのですが、先ほどのRESPECTの説明の通り、バックエンドでやや過激に動きがでる傾向のRESPECTのTetra Symmetric coreはSOLIDカバーに置き換えると、手前のパワーが十分にしながらバックエンドでも大きく動きがでるボールに仕上げるすることができます。

過激に動きを出せるコアに強さと安定感を加えようすると、このRESPECT SOLIDは計算された仕上がりと言っても良いでしょう。私の投球した感じでは、大きく幅を取りながらドライゾーンで一気に向きを変えようとするラインよりも、オイルをやや長めに使い、ピン前で動かすイメージのほうがシャープな立ち上がりピンヒットの強さを得られるような気がします。

SOLID系カバーストックのスペックなので、長い時間のドライゾーンではパワーが減少しようとするので、なるべく手前のオイルは使う傾向のラインがオススメです。

特記事項

RESPECTの奥のイメージを残しつつ、全体的にキャッチを求めたバージョン。奥の動きは欲しいけれども、安定したオイルのキャッチも双方欲しい方はこのRESPECT SOLIDがオススメです。